

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

E メール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

2026年9月14日(月)

NO. 1713号

本号3頁

高市総理 内閣改造・党役員人事を16日にも実施の見通し 来年の総裁選見据え…“ライバル”林芳正総務大臣の処遇が焦点に

高市総理は自民党の役員会で党役員人事の一任を取り付けました。内閣改造を含めた一連の人事は、来週16日にもおこなわれる見通しです。

内閣改造では木原稔官房長官、片山さつき財務相、小泉進次郎防衛相、茂木敏充外務相。党役員では、麻生太郎副総裁、鈴木俊一幹事長、萩生田光一幹事長代理、小林鷹之政調会長が継続。重要ポストは継続させ、現在の体制を変えない方針のようです。

自民党の役員会に出席した高市総理。注目される人事をめぐり、こう発言したといいます。

自民党 鈴木俊一 幹事長「(高市総理から)『全ての(人事希望)アンケートを拝読させていただき、改めて自民党の豊富な人材力を実感。党役員人事について、私へ一任をお願いをしたい』」

政府・与党関係者によりますと、高市総理は一連の人事を食料品の消費税減税などを盛り込んだ税制改正大綱が決定したあと、速やかに実施する意向だということで、来週16日にもおこなわれる方向で調整が進められています。

今後、焦点となるのは、来年の総裁選を見据えた人事。なかでも、去年の総裁選を争ったメンバーの処遇です。

このうち、茂木外務大臣、小泉防衛大臣は留任させる方向で調整が進められています。また、小林政調会長は留任も含めた要職で起用される見通しです。

いわばライバルと目される人を政権内にとどめる戦略に党内からは…。自民党ベテラン議員は、「完全に来年の総裁選シフト内閣だ」と。

そのなかで動向が注目されるのが、林総務大臣です。去年の総裁選では、1回目の投票で高市総理を上回る議員票を獲得した林大臣。前回の人事では、課題とされる党員の支持を伸ばすことも視野に、地方への視察が多い総務大臣を希望した経緯があります。

林芳正 総務大臣(1日) 「(各地で)直接話を聞き、単に書類に書かれた文面だけでなく、現場の思いや意見を持ち帰り、政策にフィードバックしたいと考えています。これからも訪問を続けたい」

しかし、去年の総裁選で林氏の陣営だった関係者からは、来年の総裁選を見据え、今の政権から距離を置くべきだといった声が出ています。去年の総裁選で林氏を支援した議員は、「ここで(閣外に)抜ける度胸がなければ、総理にはなれない」と。

その林大臣は、「これは総理の専権事項ですので、私から何か申し上げることは控えたいと思います」。去就が注目されます。

立民系は新党結成へ、公明系は公明に再入党で最終調整… 中道「分派」は双方が対等に分かれる形に

結党からわずか8カ月、9月9日に「中道改革連合」の“分派”が常任幹事会で決まりました。

「中道の所属衆院議員は立憲系21人、公明系28人の計49人になりますが、中道は立憲民主系議員を1人だけ残して存続させます。そしてほかの立憲系議員は離党して新党を立ち上げ、公明系議員は離党して公明党に戻る予定です。

分派を選択したのは、分党・分割では総支部の解散手続きなどに時間がかかり、10月上旬召集の臨時国会に間に合わないという理由からです。臨時国会では3党が統一会派を結成して、野党第1会派の立場を維持するとしています。

今後、立憲系議員で結成される新党の陣容はどうなるのでしょうか。

「(議員数の) 21 人」というのは、じつはとても重要で、国会において単独で法案が提出できるギリギリの人数が 21 人なのです。そのため、数人が新党に参加しなかったら、新党の存在感、求心力は一気に低下することでしょう。

新党の代表には、立憲民主党の代表も務めたことがある、泉健太衆院議員の名前が取り沙汰されています。泉氏が立ち上げた政策グループ『新政権研究会』は、現在では田名部匡代立憲民主党参院幹事長が会長を務めています。

将来的に、新党と立憲が合流することを視野に入れているなら、泉氏が代表になればスムーズに運ぶのではないのでしょうかとの政治ジャーナリストの見方も報じられています。

中道は年内をめどに、支部の解散や財務などの会計事務処理を完了させて、解散することも発表されました。一方、ここで注目されているのが、今後、同党に支払われる、約 12 億円の「政党交付金」です。「2026 年は、中道に約 23 億円の政党交付金が支払われます。すでに 11 億円あまりが支払われているので、未払い分は約 12 億円になります。

国会議員が 1 人だけという『解体状態』の政党に、巨額の交付金が支払われるわけですから、階級幹事長の会見では、記者が同党に残る 1 人を『破産管財人』と表現するなど、厳しい質問がされました。なお、記者会見で階級幹事長は、「破産管財人というのは極めて失礼な言い方ではないだろうか。我々は破産はしていない」と、記者に反論しています。

さらに、この約 12 億円については、小川淳也代表が会見で「衆院選のときに(ポスター作成などで) 多額の委託をおこない、分割支払いに応じていただいている。(その) 10 億円あまりを踏み倒しているのか」と記者に逆質問。“借金返済”に充てることを明言して、さらに衆院選の落選者、およそ 150 人への支援にも支出するとした。こうしたことから、X には《前回の選挙費用の支払いがまだなんですね。つらい状況だなあ》と理解を示す声から《中道 12 億円ネコババする》など厳しい意見まで、さまざまな投稿が寄せられています。

「深く深くお詫び」中道・野田佳彦氏、3 党合流断念に 落選者から「無知蒙昧」の批判も

中道の野田佳彦前共同代表は 7 日、自身のブログを更新し、中道と立憲民主党、公明党の 3 党の合流断念について「誠に悔しく残念でなりません。ご支援、ご期待をいただいた皆様に、深く深くお詫び申し上げます」とするコメントを発表しました。一方で「私は中道勢力の結集を決して諦めません」と意欲をあらわにしました。

野田氏は 7 日のコメントで、中道結成について「物価高で苦しむ生活者の姿に真摯に寄り添い、欧米発の右傾化と分断の波にストップをかけようという挑戦でした」と意義を強調。2 月の衆院選における中道の大敗を挙げ、「この敗北こそが合流を阻んだ最大の理由でしょう」との見解を示しました。

■「中道の大きな塊は時代の要請」

一方、中道が衆院選比例代表で約 1043 万票を獲得したことを踏まえ、「自民比例票の約半分に迫りました。この国民の負託に応える大きな責任があります。合流を果たせなかったとはいえ、責任放棄することはできません」とつぶやきました。自民党と日本維新の会の連立与党について「着々と右巻きの政策を進めていこうとしています。小さな違和感が集積されつつあり、やがて大きな疑念へと変わっていく可能性があります」と指摘。「その時こそ、中道の大きな塊を作る試みは、これからの時代の要請になるはずです」と予想しました。

中道が立民出身議員と公明出身議員で分裂する可能性が指摘されている中、野田氏は両勢力の衆院での統一会派結成が検討されるとした上で、「いずれにしても、私は中道勢力の結集を決して諦めません」と締めくくりました。

■前衆院議員「高い授業料」 愚鈍で無知蒙昧なリーダー

1 月、当時は立民代表だった野田氏は公明代表だった斉藤鉄夫衆院議員とともに中道の設立を主導し、両氏は共同代表に就きました。両氏は衆院選惨敗を受けて共同代表を引責辞任。合流見送りが決まった 8 月 31 日には、野田氏は記者団の取材に「ノーコメント」と話していました。野田氏に対しては、2 月の衆院選で落選した立民出身者を中心に批判が強くあります。

藤原規真前衆院議員は 8 月 31 日、「野田佳彦氏から、愚鈍で無知蒙昧なリーダーを選ぶと組織はどうなるかを学んだ。高い授業料だった」と X (旧ツイッター) に投稿しました。

現職玉城デニー氏を抑え、

沖縄知事選

自民党などから公認を得ている古謝玄太氏が当選

沖縄県知事選は、現職の玉城デニー沖縄県知事（66）と自民党など複数政党から公認を得ている古謝玄太氏（42）の一騎打ちとなりましたが、【NHK ニュース速報】沖縄県知事選 新人の古謝玄太氏が当選確実 自民など6党推薦 現職の玉城デニー氏ら抑え（20:00）と、開票が始まっていない8時に古謝氏の当選が報じられました。

玉城氏は2期、知事として様々な成果を上げてきました。県経済の振興や観光の再生、子どもの貧困や離島の不利性の解消、米軍基地問題への対応、ひとり親家庭やヤングケアラーの支援などが含まれます。また、急激な物価高騰から県民の生活や事業活動を支える取り組みを最優先の課題とし、補正予算なども編成して重層的かつタイムリーな支援の強化を図って来ました。

私事ですが、選挙の応援に出かけ、泊地域でハンドマイクでデニー氏の支持を訴えていたところ、軽自動車が止まりまどを開けて女性が「宮古島が基地強化で大変。島が壊される。デニーさん頑張って」と声をかけてくださいました。当選報道の後、共産党の田村智子委員長が、「高市政権は玉城県政を転覆させるためにはどんな手でも使う」「相手は『辺野古が唯一の解決策』という大ウソにしがみついた」沖縄知事選の玉城氏落選に「悔しい」と述べました。今回の結果が「（辺野古移設への）民意だとは受けとめていない」とも訴えておられました。引き続き、辺野古新基地建設など米軍基地問題等をデニーさんとともに全国の仲間とともにたたかって行きたいと思います。玉城デニーさん、お疲れさまでした。



これは酷い!! デニー氏が「ロードローラーに轢かれる」動画…SNSで「誹謗中傷」

さて、この度の知事選挙では、SNS上では支持者による激しいバトルが繰り広げられました。なかには誹謗中傷としか言えないような投稿も数多くあり、生成AIを使った動画などもたくさん流れ、問題視されています。X上では玉城デニー氏がロードローラーに轢かれる悪質なフェイク画像も拡散され、大きな波紋を呼んでいます。

選挙最終盤の12日の夕方那覇市内で開かれた玉城氏の「ラストスパート集会」は、参加者が通りの両側を埋め尽くし、熱気に包まれました。デニー氏は「誰一人取り残さない優しい沖縄」を掲げ、子どもの貧困や中小企業対策などに取り組んできた、自らの実績を語りました。そして、古謝氏を応援する側から、SNSなどを通じた大量の誹謗中傷が流され、ついにデニー知事を応援する人にも誹謗地中小を浴びせかけてきたことを挙げ、こんなことが県知事選挙で許されると思いますか。民主主義手はない」と強い怒りを示しました。さらに、「この陰謀に負けないことは、みんなで立ち上がって玉城デニーを勝たせることです。本当の沖縄のリーダーを選び、跳ね返していきましょう。今こそ立ち上がろう。うちなんちゅ（沖縄県民）の正義です。立ち上がろう」とデニー氏はこぶしを突き上げ、参加者を力強く鼓舞しました。

前日の那覇奥武山公園駅前の朝の街頭宣伝でも、デニー氏はそのSNS等による誹謗中傷問題について触れ、「3倍・4倍の過去最大のSNS等による誹謗中傷が行われている。私への誹謗中傷ならまだしも、私を支援してくださる方々への誹謗中もひどい。民主主義の危機だ」と訴えました。

日刊スポーツ 沖縄県知事選で“デマメール”に現職陣営が抗議と報じる

日刊スポーツもSNS上で候補者に関する偽情報や誹謗中傷ともいえる内容の投稿が確認されており、声明を発表する事態にも発展していると報じていました。

玉城氏の陣営は11日、「玉城デニー及び玉城デニー選挙事務所に関する虚偽情報への抗議声明」と題した声明文を公表。今回の選挙戦で「SNS等を通じてまったく事実と異なるデマや中傷が異常な規模で出回っております」とした上で、「選挙公約の一つとして『沖縄県』を『琉球県』へと改称」「投票していただいた方へお礼の品をお渡ししています」などの偽情報が記されたメールが関係者に送信されたとし、メールの現物も提示。「このメールについて、玉城デニー本人および玉城デニー選挙事務所は一切関与しておりません」として、「すべて事実無根のデマ」などと訴えた」と報じました。

このデマメールでの誹謗中傷は選挙戦ごとにエスカレートし、深刻な問題となっています。民主主義を守るためにも抜本的な対策が必要となっています。